国際ロータリー第２７３０地区　2006.7～2007.6

佐土原ロータリークラブ週報

率先しよう

2006-2007 年度ＲＩテーマ
【ロータリー財団月間】

会　　長：佐藤高元　　幹　　事：太田　忍
副 会 長：梶田與之助　　会報委員長：林　厚雄
会　　計：村岡　博
事 務 局：〒880-0211　宮崎市佐土原町下田島 11703-18
TEL：0985-62-7833　FAX：0985-62-7877
携帯：090-9596-6114　吉野由里子
例 会 日：毎週水曜日
例 会 場：ハイビスカス　ゴルフクラブ
TEL：0985-73-0109

12 月 6 日プログラム予定　・・・ゲスト卓話
12 月 13 日プログラム予定　・・・年次総会

第 954 回　平成 18 年 11 月 29 日（水）

本日のプログラム
1．点　鐘
2．ロータリーソング
「手に手つないで」
3．会 長 の 時 間
4．幹 事 報 告
5．フォーラム「ロータリー財団」
6．点　鐘

第 953 回の記録　　平成 18 年 11 月 22 日
★ 会長の時間　　佐藤　高元君

みなさん今日は、前回の例会が地区の行事と重なりましたので出席出来ず迷惑をおかけしました。地区では年間の事業計画に基づいて、色々な行事を実施しますが、特に高齢者の活動が盛んになっています。みなさんご存知のように、高齢者人口は年々増加しています。総務省の調査では、高齢者の人口は全人口の20%を越すようになったと報告しています。佐土原町でも65歳以上の高齢者が20%を越す地区がかなりあります。多いところは30%を越す地区もあります。

佐土原町には高齢者で組織する「ふれあいいきいきサロン（元気になろう会）」という会が28団体あります。それぞれ、毎月１回定例会を開いて、色々な活動をしています。健康料理研修会・公園や道路の花植え替え・色々な施設の見学などを実施しています。地区はそれに対して、経費の補助をしたり、当日の世話をしたりします。

誰が付けた名前か分かりませんがサロン（SALON）というのは大変しゃれていると感心させられます。

サロンとは西洋風の邸宅の客間・応接間のことであります。フランスの上流社会ではそこで社交的な集会を開き、政治や芸術について話し合ったそうです。高齢者の方々にとってこれ以上のハイカラな名前はないと思います。

南松小路サロン計画では、毎年11月にいろいろなところへ見学に行くことになっています。昨年は、NHK 放送局を見学に行きました。今年は、宮崎日日新聞佐土原工場・鶴松館・西都原古墳の見学を計画しました。

高齢者の方々は、社会福祉のバスで一緒に案内しますが途中で緊急な場合の移動手段を用意しておく必要から、私が自家用車で同行することになりました。それが例会に出席出来なかった理由であります。ひんやりとする風のある日でしたが30人の団体で出かけることになりました。

社会福祉協議会の車で佐土原駅を 9時30分に出発しました。久しぶりのバスに乗っての遠足とあって、皆さんの表情も明るい。

一緒に出かけて２つの事に気づきました。

１つは非常に明るいということです。あちこちから冗談も飛び出し、終始和やかな雰囲気でした。

２つ目は興味関心が旺盛ということです。見るもの聞くものに一生懸命です。懐かしみながらの見学でした。高齢者は家に閉じこもりがちといわれます。

できるだけ外に出てみんなと交わることによって、心身の健康を維持していくことが大切です。高齢者の社交場として「サロン」は大切にされなければなりません。「裏へ続く・・・」

そのための地区の活動をさらに充実していく必要があります。
　12月は、「餅つき大会」です。日本の伝統的行事を楽しみながら、おじいちゃん・おばあちゃん・子供達との世代間交流を行い、人と人とのつながりを深め、豊かな地域づくりをめざします。
　今日は、皆さんの大切な時間を無駄にしてしまったような気がしますが、地域に根ざしたロータリー活動の工夫を課題にしていただきたいと言う事を、お願いしたい気持ちもあったのです。

★　幹事報告　　太田　忍 君

　鹿児島ロータリークラブ　会長　樫山博美
※　ロータリー特別番組のご案内
　放送局:MBC南日本放送
　放送日:11月26日(日)
　放送時間:AM１１:００－１１:３０
出来るだけ多くのロータリアンの皆様にご覧頂きたくご案内申しあげます

★　2005～2006年度米山奨学会寄付優秀クラブ第３位の(会員一人あたり寄付額)賞状を披露しました。

★　会員卓話　　柳田　光寛 君

勤労感謝の日を前に「新嘗祭」について
　新嘗祭は古くから天皇がその年に収穫された新穀や新酒を天照大神をはじめとする天地の神に供え物作物の恵みに感謝し、自らも食す儀式でした。律令制度のもと11月の２番目の卯の日に新嘗祭を大嘗祭と呼び天皇の即位を天下に知らしめる大きな祭典となっています。
　新嘗祭がいつ頃から行われていたかはっきりとしないのですが、日本書記で皇極天皇元年(642) 11 月 16 日に新嘗祭の記述があるのが文献に出てくる最初です。この日の干支は丁卯にあたり、すでにこの時代に11月の２番目の卯の日が新嘗祭と確立していたようです。
　明治以降、新嘗祭は11月23日に定められ国民の祝日となります。そして昭和23年より勤労感謝の日と名を変え「勤労をたっとび、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう」日として国民にすっかり定着した祝日となっています
　本来、この新嘗祭は宮中だけで行われていた儀式ではなく一般民衆の間でも新しい穀物を神に供えそれを食べて収穫を祝う習慣がありました。「風土記」や「万葉集」にもその様子が描かれており現在も年迎え的な行事として能登半島の「あえのこ」や関東地方で行われている「十日夜」が残っています。

～ MEMO ～

出席状況　第 950 回　平成 18 年 11 月 1 日

会 員 数	30 名	欠 席 者 数	6 名
出席者数	24 名	メークアップ	2 名
出 席 率	80.0 %	修正出席率	86.0 %

言動はこれに照らしてから
■　四つのテスト
１．真実かどうか
２．みんなに公平か
３．好意と友情を深めるか
４．みんなのためになるかどうか